



南風

第2号

令和5年5月2日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

マスク事情の変化とコミュニケーション

校長 吉原 誠 士

5月以降のマスクの着用について話題になっています。この問いへの本校の回答は、保護者の方々を含む来校者には「判断をお任せします」であり、教職員に対しても着けるか着けないかを強制することはしていません。生徒に向けても「どちらにするのか自分で考えて決めなさい」という姿勢は変えていません。一部の中学校では「卒業式・入学式の時は全員外そう」と決めたとこもあつたと聞きました。感染症の流行の具合にもよりますが、どの学校でもマスクのない姿が多くなりそうです。

教職に就きたての頃、私はよく表情作りの練習をしていたものです。はじめは全身を使って表現豊かに振る舞うという高度なものではなく、ただ向き合う相手に好印象を与えるような応じ方を研究していました。当時は「ノン・バーバルコミュニケーション(言語によらないコミュニケーション)」などという言葉は知りませんでしたが、次第に表情だけでなく身振りや手振りをつけることも意識するようになりました。大きな鏡は風呂場や洗面所にしかなく、怪しげな動きをする姿を、飼い犬も含めた家族全員が心配していたようでした。しかしせっかくの努力も、コロナ禍で顔の半分以上が隠れてから、技能に衰えが見られるようになりました。そこで、実はこっそり再トレーニングを行っています。

口元が覆われていたこの3年間、コミュニケーションのあり方には大きな影響がありました。大声を遠慮しながら、とにかく話の中身が伝わることだけを意識すればよかったように思います。顔全体を見せ、しかも物理的な距離感も変わると、言語と非言語が組み合わさった高度なコミュニケーションが求められるという問題が生じます。具体的には、自分の目や口元の動きによって発語に感情を伴わせる、相手の受け止め方を顔全体の動き等から読み取り応じる、その時々状況によって相手への向き合い方や間合いを工夫する等が挙げられます。脱マスクの社会になって、生徒だけでなく、大人にも学び直しが求められていると考えられます。上に書いた私の再トレーニングには、カード式の「はあって言うゲーム」(幻冬舎・現在1~4まで販売されている)を使っている、^{いさか}訝しむ人も犬もいないのを幸いとばかりに、校長室でブツブツ呟き、ジェスチャーを繰り広げているのです。この職だと発声の仕方によっては誤解を与えかねないこともあって、真剣なのです。

相手の心情を^{おもんばか}慮って対応するのが対人関係構築の基本です。極端な言い方をすれば“素の自分”だけではなく、“化けた姿”も大切にしなければいけないということです。議論等で述べ合う時には本音での勝負が求められますが、その場合でも気遣いは欠かせません。その時、その場面に合わせて考え、状況を判断しながら進めることが求められます。マスク事情が変わり、織り込む要素が増える中、経験値を上げて新たな自分を開発しましょう。これを積極的に行えるのが年度当初の「よさ」というもので、「これまでとは違った自分を見せようとする」「自己のモデルチェンジを図る」といった張り切り方も大事でしょう。・・・鏡の前に立って練習することから始めてみてはどうでしょうか。